

ナラ枯れ面的防除実証試験を開始しました

置賜森林管理署は、森林病虫害対策の一環として、山形県森林研究研修センターが進めるナラ枯れ面的防除法の実証試験に国有林のフィールド提供等の協力を行っています。

今年度は、おとり木林分1箇所、集積型おとり丸太1箇所の設置と、殺菌剤樹幹注入後のナラ林の経過観察に取り組んでいます。集積型おとり丸太は、平成21年度から加えられた新メニューで、大量にカシノナガキクイムシを捕獲するとともに、ナラ材を木質資源として有効活用する手段として注目されています。

6月16日には、山形県森林研究研修センター、山形県、小国町等と一緒に誘引フェロモン剤（ケルキボロール）をおとり木等へ設置しました。

当署管内はナラ枯れ被害が急速に拡大しています。民有林と連携して新たな手法の開発に協力していきたいと考えています。



おとり木林分試験地



集積型おとり丸太



殺菌剤樹幹注入作業



殺菌剤樹幹注入状況

(H22.6.22掲載)